

要約 『日本文化原論 永続思想 主体性学』

1)関心の焦点

1-1 人間性の探究と実現

人間と生態の健全な姿という事を主題に設定し、堂々とあるべきビジョンを問い表すような探究領域を確立することが望ましい。保守やリベラル等という概念も、このような発想からの概念形成の一つとも伺える。伝統を重んじ先人への感謝と向上心を抱きより良き漸進的な改善の習慣をもって、生を全うする保守性等と解される。これに対して、リベラルは既成的な秩序の縛りにとらわれる事の少ない自由な発想と挑戦意欲をもって、より良き個人と社会のあるべき姿を実現すると解される。伝統性と革新性の概念が充てられる。

1-2 抽象性の曖昧さと弊害

しかしながら抽象性の解釈は幅広く受け止められる。基礎土台的な観点が希薄であって、今一つ性格を特徴づけるまでに及ばぬ心象が起こる。人間の共通的な根本的観点を基礎に引き出し各種個性を表す前段的な側面からの適正を問い根本性を全体観に表し個別特定を配する創造体系から人間と生態の一般原理が導出される。共通と違いという区分を表す概念形成に至って、健全な人間の一般性と長短性の認識や尊重心と相互補完的な協業に向けられる健全な人間性を土台に備えた社会と自然と生態を作る大枠体系を遂げる。人間と生態の健全と永続の思想と世界観から万人的な同一基盤の厚みを作る創造に至る。

1-3 人間の物化

物的因果へ異様な依存と外界を支配従属させる発想や感性が過ぎると、非人間性や非社会性という犯罪現象に外れる。人間の物化という様相となって非建設的な破壊が作られる。保守やリベラルという色分けをする以前の観点となり、健全な人間性の同一基盤を高める概念と思索を生む。物的力への依存と自由な経済を自由主義やリベラル等と解する向きの傾向が浮かぶ。程度によっては非人間性が出現する。堂々と歪な発想に外れず、ソフト性に重心を持ってハードを従える文民統制という感性と身体の相関と習慣を有し、人間性の物化という感性や生命観の劣化や喪失に陥る事の無き根本性を宿し、健全な感性による創造習慣を遂げ人間一般の適正基準の認識が産まれる。過去の正負の現象と反省と改善の熱意が存続し基準概念を導出し、確かな未来像を引き出しプラス基調の発想と人間性が促進される。狂ったような資本主義や病んだ閉鎖性の保守などという物化状態が広がる事の無き、健全なソフト性に源泉を持ちハード性を従える人間像と未来像が描かれる。内面性と外面性が異様に違うなどという詐欺気質や露骨に利益を略奪する野蛮性に及ばぬ肝となり得る観点の導出や集約を果たし広く同一価値と共有する主体像や領域観の一般法則を生む。

1-4 実社会の展開

「貨幣や情報や商品や人財」等という流通を担う分野においては尚更に健全な思想と世界観が問われる。サービス経済化という産業構造が進む中で短期的な効果性に偏り纏まりある領域像が乏しいと、非社会的・非人間的な利益追求の経済性に外れる。力に相応した基準概念が求められる。予めの尺度を導出し内外へ堂々と明示することが必要になる。権利義務の均衡をもって平等性が稼働する。こうした社会秩序が当たり前に進み、歪な利己性や狂った自由主義の病理と予防が進む。人間の物化に箍がかからぬ状態は深刻な問題認識を生む。基盤性の脆い社会や空間、国家や生態は永続軌道から外れ危機的な影響を広げる。

1-5 特定専門性

健全な思想性とは異質の態度に外れる事の無き、適正像の探究が重ねられ、確かな基準性を構築する事に健全な感性が現れる。こうした関心と問いに集中し良き概念導出を主要な生産活動と定め内外への有用な働きを担う特定領域が出現する。理論家や思想家、哲学者等という個性を生む。基礎基盤性の科目として人間の中核的な要素を堂々と問い持続的な活動が成されて然るべきと解される。妙な誤魔化しによらず、堂々と根源的な側面からの人間と生態のあるべき姿を問い自他との同一基盤を確立することに健全な感性が現れる。専門科目は、これらの基盤性を所与的な前提にもって各種領域の精査を果たし統合に回る循環系にあって健全な科学性や技術力が形成される。基盤性科目が希薄であると歪な専門を招き病んだ人間と創造が広がる。基礎基盤の重要性が確認される。「生命観や人間観、社会観や自然観、生態観」等という根本概念について大きな力を活用する状態に比例し確たる見解を整え物理性を従える動静の規則性が定着し変らぬ良質の軌道と世界が存続する。

2)思想・世界観・活動法則

2-1 堂々と開かれた秩序(抽象理念性)

良好な哲学文化と文系と理系の専門を併せ持つて健全な人間と創造と生態を遂げる。根が狂うと全体像の萎縮や歪性に陥り病んだ特定領域や個別現象を齎せる。病んだ保守や破壊的な自由という非人間と犯罪性を生む。堂々と開かれた社会や創造から良好な生態基調を生む。適正観点を精査せずには歪な開放や閉鎖の危うい世界を齎せる。男系や女系という分類の前段的な要素を掴み作る事が望まれる。「単たる肥満が男らしく模範的」という秩序が進行すると根の歪性が改善されず愚図が異様な力を求め暴走を招く。平易に伝わる人間と生態の健全と永続の思想と世界観の探究と提起に及ぶ。

2-2 領域性の要件(準抽象原理)

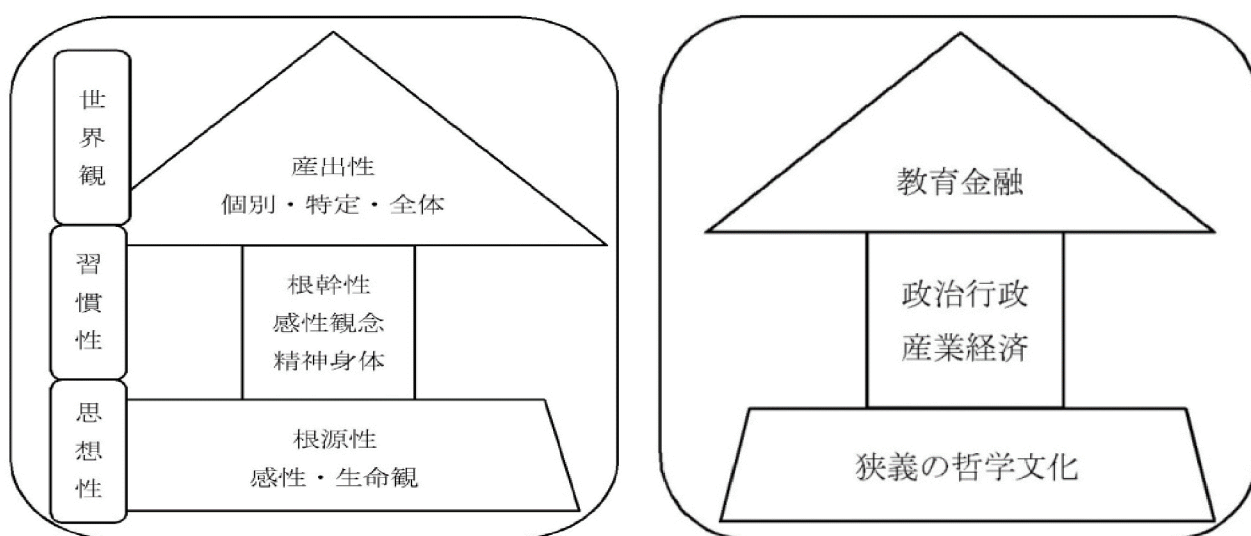
人間の内面を直接的に問うことに偏る倫理道德に留まらず、どのような社会や生態、世界を求めるか、外界の抱き方や過程や習慣を含み性格の質実の実感に及ぶ。構図の導出と観測と評価と改善と持続の体系にあって健全な哲学倫理道德を実現する。思想性・世界観・活動法則を含む動静観に抽象集約し稼働と検証の回る人間と生態を生む。一方向的な創造に陥らぬ相互と循環と持続に変わらぬ人間と創造の健全性を生む。哲学文化領域も何処の領域とも変わらぬ性格をもって良好性と改善力が続く。経済要素を少なからず内蔵し産出が外形化される。領域を構成する要件が以下のように精査される。

静的 動的	あらゆる領域性の要件 広義の哲学文化
	領域の基本的趣旨、理念、
狭義哲学文化	技術性や概念の精査、
教育金融	直接因果・間接因果、個別・特定・全体
政治行政	意思形成と稼働と検証と持続的な仕組み、 安定的仕組み、習慣性、
産業経済	技術性の行使、検証と改善、

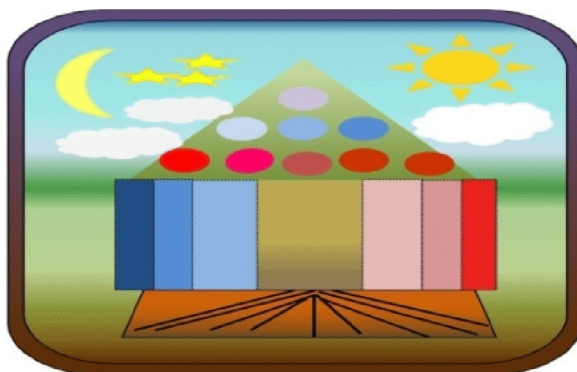
静的	人間性と生態系
動的	感性と観念と精神と身体の相関と習慣
感性的	狭義の哲学文化
観念的	教育金融(定性と定量)
身体的	政治行政、産業経済

2-3 領域の一般法則(具象展開)

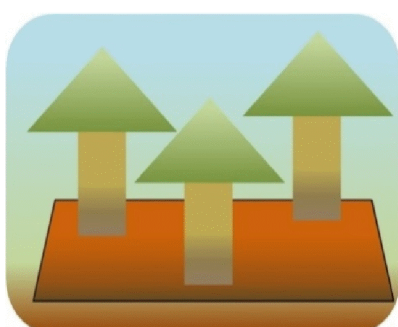
誰にも身近な樹木という対象を浮かべ、生態の基本法則性を表し、人間と生態の健全と永続の世界観と実現の方法論が産まれる。



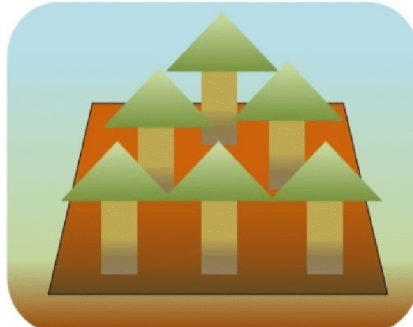
2-3-1 樹木(原型)



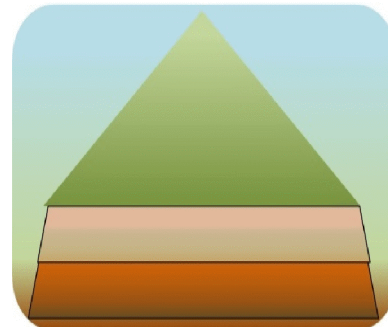
2-3-2 林



2-3-3 森

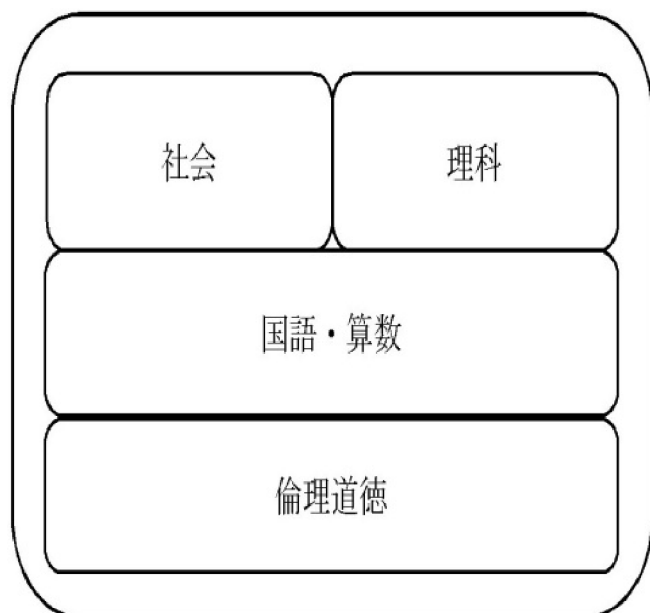


2-3-4 山



3)分母的世界観

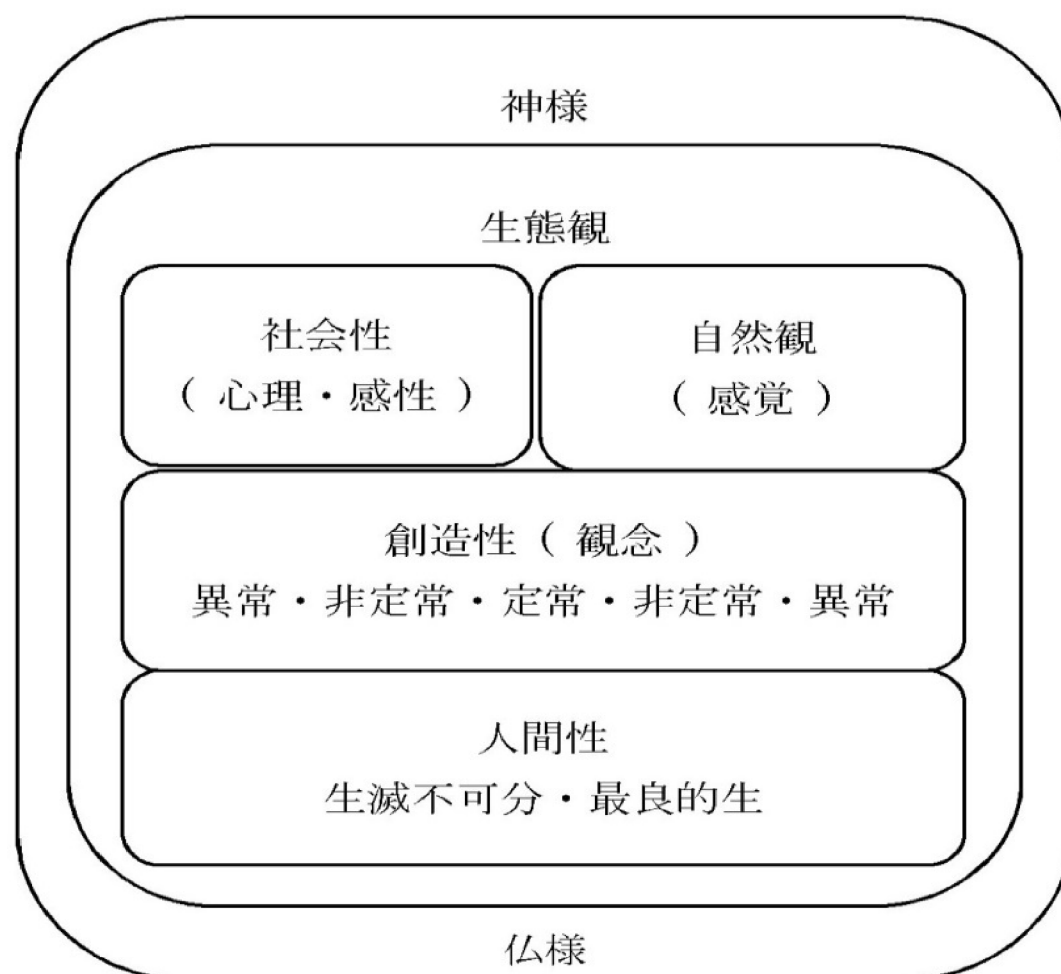
3-1 学問・学術



3-2 哲学・科学・技術



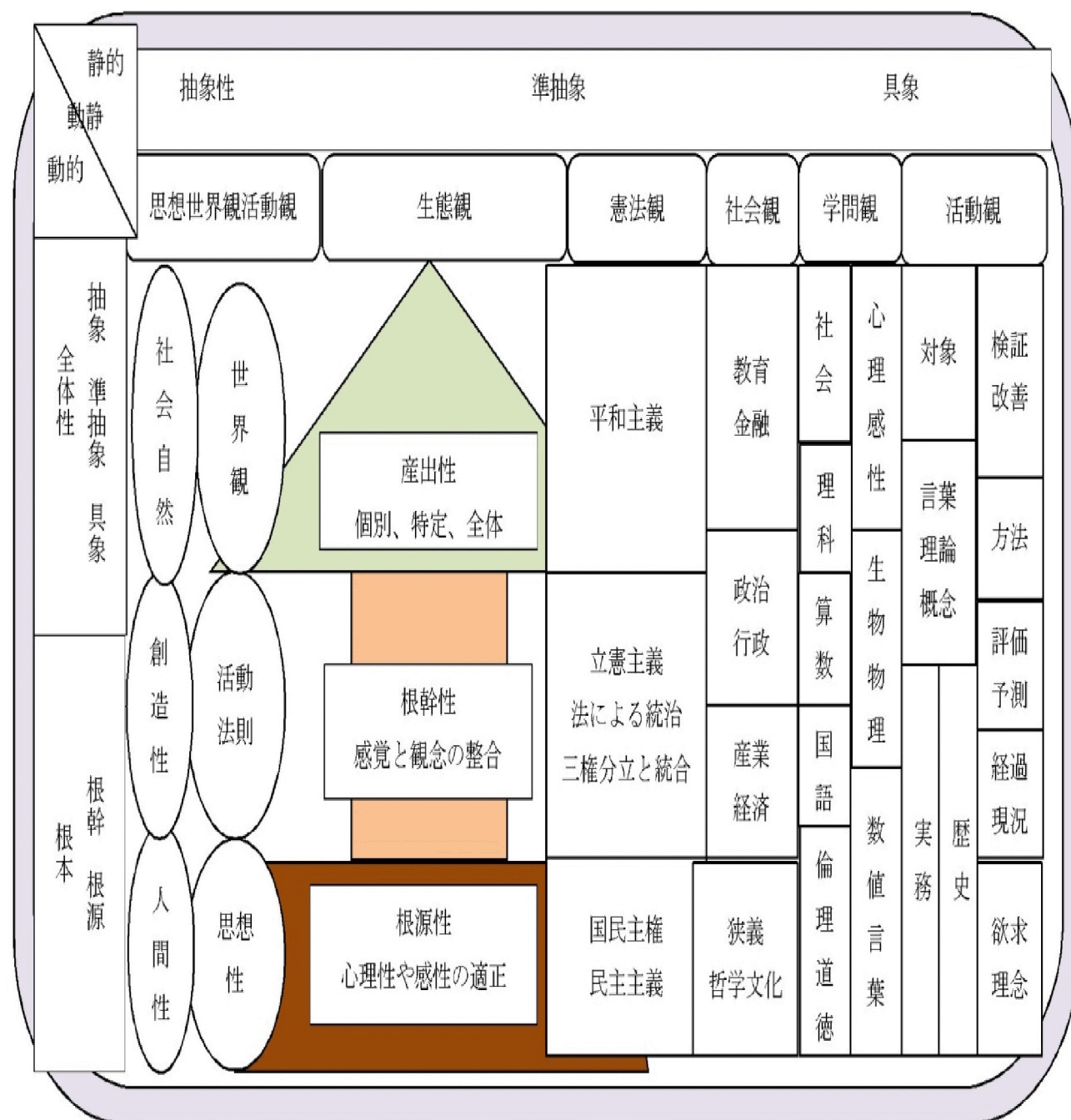
3-3 人間と生態の健全性と永続性



4)集約性・総枠観

4-1 対象性と根本性と適用、集計と総枠

局所的な対象範囲から中局性や大局性の観点を生む。各現象に相応する概念を形成し、あるべき領域性と現況と方法の創造法則が稼働する。各対象性と観点の根本原理を掴み本質的な性格の変わらぬ基本法則の同一性を持って、対象の広狭や深浅に照らした制御の在り方が産み出される。横軸と縦軸の整合の高まる構図の導出と集約へ及び健全な人間と生態の永続軌道と循環系を実現する。



4-2 活動法則と産出

健全な人間性に力の起源を持ち、創造性と社会性と自然観と生態の繋がる全体集約と総枠観が産み出される。こうした価値観を万人的な基礎に組む事が自然に思われる。基礎の安定の基に各個性の適当な在り方へ及ぶ。健全な根源性を持ち個別現象に対面し正負の体験と反省と改善の熱意が存続し適当な全体や総枠観の集約に及び個別特定の適当な配置感を生む。良好な活動法則により空疎的な総枠性や混乱的

な分散に陥らぬ中味と器の適正を生む。感性と観念と精神と身体の相関と習慣の適正により良好な観念や領域観や世界観の産出に及ぶ。

4-3 運用面の適正と不適正

あまりに大きな規模の対象を無機質な機械性を持って強引に統制する態度が高まると反発と不協和の領域性を生む。形ばかりの空疎的な概念と中身の不整合という不健全な領域を招き、他領域へ負の影響を与える。短絡的な機械性や無機質合理の感覚が強まり人権意識の希薄な全体統制の弊害が出現する。強引に物的力を持って外界を支配する歪な根源と根幹を生み過剰な対象性の範囲を求める欲張りなどという性格と解される。適当な対象範囲に分化させ健全な感性と観念と精神と身体繋がる領域性と制御性に修復する自然律が作動する。頭と体と感性の分断状態の病んだ領域について健全な生命観を作り出される対象範囲の分化と制御が進む。過ぎたトップダウンの悪性を継続させると、個々の対象の根源性が狂い突如図しない危険状態を出現させる。或いは、力を与えない制御性を強める病理的な管理運用と統治性に向かい根源的な不利益を深め広げられる。感性という見えづらい内面の病みが外形に表面化する。全体の為に個を犠牲にする制御性が強まる。物的力の支配と限界を知り法による統治というソフト面に重心をもって、ハードの適正に連ねる創造法則が稼働する。普遍的不変の原理性と定まる。

4-4 概念形成

人間と生態の健全と永続の思想と実現の探究と実践の活動が存続する。肥満なボンボン育ちや急激に力を得た経営者などという性格に大きな力を与えると無機質合理の機械性と管理体制を強め、根の歪な人間と生態を招く。力の適正な管理運用の外れた病理性を作る事の無き、健全な成長過程へ思索が深まり成長過程の適正観を纏める事に及ぶ。事前型の観点と具体の施策が作られる。頭と体の分断の高まる教育が進むと健全な感性を作る機会の乏しい歪な人間を生む。力への異様な依存と外界の支配従属の発想と態度を強める原因が浮かぶ。産出性の概念として静態体系と動態面の適正観と成長過程面の適正を産む。

5) 当該創造性

時代状況という現況に直面し、変らぬ適正基準像と実際の対比と自己の資源の有限性を掴み出来得る最良的な施策を起こし有用な効果を遂げる実際を生む。当方の生い立ちからあるべき基準像の導出へ及ぶと共に自己の出来得る範囲の方法の認識を生む。理想と現況と方法の創造となり世界観の提起という施策が投げられる。あまり理想と現況が乖離する状況認識においては身体的な因果と施策の積み上げと改善を図る施策性に対して、言葉や概念の導出と提起という方法に有用性や有効性が産まれるように思われる。あるべき適正概念を表す事により、良好な観測と評価と施策を促進する作用が期待される。多くの人々との共感と納得の高まる概念や世界観を表し同一基盤性の欲求と力が揃い投じる施策の方向に同一基調が広がり、実際の因果を作る仮定を生む。日本文化原論と題し内容を示す事に及びます。表現の自由の範囲であると考えます。